

# 落花生・マルチ栽培（品種：千葉半立）

印旛農林振興センター

## 1 地区名（集団名）

富里市（J A 富里市エコ落花生生産グループ）

## 2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 9戸
- (2) 栽培面積 267 a
- (3) 収穫量又は出荷量 7,000kg 262kg/10 a
- (4) 出荷先又は販売方法 J A 富里市

## 3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	2回	2回
化学肥料(窒素分量)	1.44kg/10a	1.5kg/10a

## 4 事例のあらまし

富里市は「スイカ」「ニンジン」等の野菜産地です。そのなかで、落花生は単位面積あたりの所得が野菜より低いため、栽培面積は減少しています。地力増進と土壌浄化を目的に、地域の重要な輪作作物である落花生を見直す必要があります。

落花生のエコ栽培で、「茹で用」の生落花生は加工を伴わないため、既に取り組みされていましたが、「煎りさや」落花生の加工品販売は、J A 富里市が県内では初めての取り組みです。

「J A 富里市煎りさやちばエコ落花生（千葉半立）」誕生は、「生産者」「J A 富里市」「全農ちば」「県関係機関」が、「栽培方法」「加工委託先」「販売先」の確保など、生産から販売までの協議や検討を重ねた結果です。

## 5 背景・動機

平成17年、J A 富里市根本実組合長が(財)全国落花生協会の理事長に就任し、これを機会に、国産落花生の生産振興に向けた取組をJ A 富里市としても実施することになりました。国産落花生は輸入品に対し、価格では勝てませんが、食味と安全性で優位に立っています。そこで、落花生栽培を農業経営のプラスにすることを目的に、品質と安全を維持しながら、消費者から国産品の支持と購入を取り付ける体制づくりを図り、生産を拡大することが必要でした。

取り組みの一つとして、JA富里市と改良普及課が連携し、「ちばエコ落花生（煎りさや）」の生産と販売について検討しました。

JA富里市のオリジナル商品「JA富里市ちばエコ落花生」発売に向け、栽培方法、生産部会の設立、集荷、加工委託、販売先と順に検討を進めました。

最初の検討課題は、基準内で栽培出来るかどうかです。生産者から従来の栽培方法を聞き取り、農業改良課及び研究機関と検討した結果、栽培は可能と判断し、平成18年の栽培に向け、生産者を募り、2戸50aで栽培に取り組むこととなりました。

次に「ちばエコ落花生」の販売には、製造時に混入がないよう、専用の加工ラインを組む必要があります。「煎りさや落花生」は、ちばエコ初の取組であるため、安全農業推進課の指導と全農ちばの協力を受け、委託する加工業者を決定しました。

販路は、事前にサンプル品を試作し、生産振興課の協力により、県主催の見本市・商談会に参加しました。その結果、JA富里市営農販売部が大手コンビニと商談を成立させ、平成19年「ちばデスティネーションキャンペーン」の限定商品として、県内コンビニ300店舗で販売を行うことができました。



食味・外観の決め手となるポッチ

### 新聞報道 H19. 2. 3 (各紙千葉県版)



## 6 栽培方法

### (1) 「土づくり」…連作にならないよう「ほ場」を選定

○たい肥は前作に施用します。有機物は生育中の根粒菌の活性化を促します。

○未熟たい肥の直前施用はタネバエを誘引するので施用は避けます。

### (2) 「基肥」…追肥は基本的に行いません

○種子は肥料ヤケをおこしやすいので、十分に土壌混和し馴染ませます。

○やさいじょうずT (60kg/10a)、BM溶リン (20kg/10a)、苦土石灰 (60~80kg/10a)。

※石灰分の効果は莢と種実の充実にあります。

### (3) 「殺虫剤」

○コガネムシの幼虫防除を行います。

「フォース粒剤 (コガネムシ類・は種時1回・9kg/10a)」。

#### (4) 「マルチング」

○地温を上げ、発芽を促進し初期生育を揃えます。

「落花生専用9230チドリ2列」(地表マルチ幅70cm+通路50cm)。

#### ア 栽培管理

作業名	実施年月日
施肥	平成19年 5月13日
は種	6月 1日
開花日	7月 7日
マルチ除去	7月 8日
中耕	7月 8日
収穫開始日	10月 7日
収穫終了日	12月 1日

#### イ 使用資材

##### (ア) 土づくり・施肥等

(10 a 当たり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
やさいじょうずT (6:12:6)	平成19年 5月13日	60kg	3.6kg	1.44kg
BMようりん (0:20:0)	5月13日	20kg		
苦土石灰	5月13日	60kg		

##### (イ) 病虫害・雑草防除等

使用農薬	対象病虫害	実施年月日
フォース粒剤	コガネムシ類	平成19年 6月 1日
キヒゲンR-2フロアブル	ハト・カラス	6月 1日

#### (5) は 種

○種子は3年に1回更新します。干ばつ害を受けた種子、過熟粒、未熟粒を除きます。

○ハト・カラス(鳥害対策):キヒゲンR-2フロアブルを種子粉衣します。

#### (6) 開花期の記録(適期掘り取りの目安として重要です)

○花が1輪以上咲いた株が、全体の40~50%に達した時です。

#### (7) マルチ除去

○開花期後、7~10日後に除去します。

#### (8) 中耕培土・除草

○株元への土寄せと同時に雑草を防除します。(マルチ除去~子房柄の伸長開始前)

#### (9) かん水

○結莢期~莢肥大期(7月下~8月中)に降雨が無い場合に必要です。

○1回当たり50mm（干ばつ時は一晩かかります）。

（莢が直接、土中の水分と石灰分を吸収して、種実を肥大させます。）

(10) 試し掘り・掘り取り

○全体の莢80%に編目がしっかり出る頃です。（目安：開花後95日）

(11) 地 干 し

○土を落とし反転し5～7日間程乾燥します。（目安：莢を振りコロコロ音がする位）。

(12) 野 積 み

○風通しの良い場所を選びます。雨よけは稲ワラやコモ等、通気性のあるものを使用。

(13) 脱 粒

○種を強く押すとわずかに柔らかみを感じる位（子実水分9%）に行います。

（注意）煎りさやの落花生に「ちばエコ農産物」認証マークを袋に貼り販売する場合には、県へ、「ちばエコ農産物（落花生）」乾燥調製等（とう精）に係る書類を提出し、県の承認が必要です。

○個人作業：「乾燥調製等計画書」「乾燥調製等実績書」

○業者委託：「乾燥調製等登録認定申請書」「乾燥調製等登録実績報告書」

## 7 今後の展望等

「JA富里市ちばエコ落花生」は、消費者や栽培・販売に係る両者から、慣行栽培品以上の品質を期待されています。また、販売面では、指名買いを得られる品質を維持し、長期にわたり継続して購入していただける顧客をいかに確保できるかが課題となっています。

一方、国産落花生は中身が重要であり「品質・安全性」の高い栽培と「食味・風味」を損なわない加工が必要とされ、ちばエコの取組は、落花生栽培を見直す絶好の機会です。

生産者の所得向上を図るうえでも「品質」の向上と「収量」の確保が重要で、特に、煎りさや落花生の品質（食味・風味）の向上には、生産者側で行う「栽培方法・掘取り時期・自然乾燥」が大きく影響し、また安定した収穫量を確保するには、「輪作・地力・石灰・夏場のかん水」が栽培上の重要なポイントとなることから、今後も、輸入品に負けない高品質・良食味の落花生を生産することが産地としての目標になります。